



**Sr.池崎の**

**ブラジルから**

**Boa tarde!**

(ボア ターラジ! : こんにちは!)

**第9回目 9月12日(日)~9月17日(金)までのレポート**

## 9月12日、13日 イグアスの滝へ



12～13日にかけて、イグアスの滝へ行ってきました。今回の報告書では、イグアスの大きさを少しでも感じてもらいたいと思い、写真サイズを大きくさせてもらいました。

さすが、世界最大の滝だけあって、その壮大さは何とも言葉には表現できないものです。日本にある各地の滝は、せいぜい数本の滝が流れ落ちているだけのものですが、この滝は自然のすばらしさというか怖さを感じるくらいのスケールでした。

いまはまだ乾季にあり、これでも水量が少ないそうで、雨季となる夏には、流れ落ちる部分に岩肌はいっさい見ることができないくらいになるそうです。ただ、水量が多くなる分、水の濁りも増し、水の色としては乾季の方が綺麗だそうです。また、悪魔ののどぶえとよばれる滝が落ちる部分（左写真）は、乾季の方が見応えがあり、雨季にはいると水量が多くなりすぎるため、見ることも近づくこともできなくなるそうです。



滝見学の後、ボートでのラフティングも行いました。すさまじい滝の勢いをそのまま体感させるものでした。

今回の小旅行で体験した滝以外の部分について紹介します。マリンガからイグアスまでは、約 400km。今回は、植田さんが、イグアスにて商用があるということで、植田さんの車に同乗させて頂きました。

まずは、イグアスへ行く途中でのことです。麦の刈り入れをしている場面に遭遇しました。刈り込みと脱穀を一度に行う巨大な機械で作業をし、トラックに脱穀後の麦を積み込んでいました(写真右)。写真右下のように、広大な麦畑です。さぞ作業も大変だと思います。この地主の畑は 50ha だそうです。かなり広大ですが、植田さんに言わせると、「狭い、狭い」だそうです。植田さんの知人に約 3 万 ha の麦畑をもっている方がいらっしゃるということで、3 万 ha=300 km<sup>2</sup>、豊橋市=261 km<sup>2</sup>。ブラジルの広大さをひしひしと感じます。



イグアス付近にある「バードパーク」にも立ち寄りました。ブラジル国内に生息する鳥を中心に、世界中から珍しい鳥が集められていました。その数約 150 種 900 羽で、天然の亜熱帯林の中に大きなゲージがあり、

ゲージの中に人間が入っていくので、鳥たちを本当に間近に見ることができました。鳥に襲われるのではないかという感覚になるときもありました。日本の鳥に比べ、その色のあでやかさが目を引きました。

3 つ目は、ITAIPU ダムです。ブラジルとパラグアイの国境パラナ川に建造された ITAIPU 発電所は世界最大の出力を誇る水力発電所です。ダムの総計は 8 km、高さは最高 185m、貯水池面積 1350 km<sup>2</sup> (琵琶湖の 2 倍)、イグアスの滝の約 30 倍の排出量があるそうです。この発電所は、パラグアイとブラジルの共同で作成されたため、発電される電力の半分はパラグアイに権利があるそうで、パラグアイにとっては、ここの発電所で国内 90%以上の電力がまかなえるそうです。ともかく巨大建造物でした。



ITAIPU ダムを見学し、私はバスターミナル (長距離バスで約 7 時間かけて、マリンガへ送っていただき植田さんと別れました (植田さんはこの後、主目的の商用だそうです)。今回の小旅行では、植田さんの計らいで滝の見学だけでなく、ボート体験・バードパーク見学・ITAIPU ダム見学と盛りだくさんの内容となりました (麦の刈り入れ場面も、植田さんが車を急きよ止めてくれました)。植田さんは、旅行のコンダクター、通訳、カメラマン (実はこれが本業は写真屋さん) となり、今回の小旅行のお世話を頂きました。お陰で本当に楽しい小旅行になりました。



## 9月14日 ヴィニシウス デ モラエス校訪問

これまで、比較的落ち着いた学校を訪問させてもらう機会が多かったので、ちょっと大変な学校を見せてほしいとお願いし用意して下さった学校の訪問です。この地区の保護者は経済的に裕福ではなく、教育への関心も低いそうです（マリンガ出身の通訳アケミさんもその通りの地区だと言っていました）。大変な状況も見ることができると期待していましたが、実際は、子ども達の表情も明るく困る学校という雰囲気ではありませんでした。

楽しく教室を訪問し、声をかけたり質問させてもらったりしましたが、右写真のクラスだけは授業の雰囲気をそのまま見せてもらいました。このクラスは5年生（11歳）の理科の授業です。水の状態変化（気体・液体・固体）の学習でした。おそらくこの単元のまとめの時間で、教師が黒板に問題と4択の答えを書き、子どもがそれをノートに写し回答を考え、答えを選択するという授業でした。子ども達は真剣にノートに板書を写し取り、回答を考えていました（上写真左）。ただ、自分の回答が選択でき時間に余裕ができたあたりから離席したり話し始めたりする子も出てきました（上写真右）。しかし、次の問題の板書で、子ども達は再び真剣に自分の学習を始めました。結局、教師の授業の組み立てに問題があり、子どもが授業に集中できなくなる時間を作ったために生じた光景でした。日本でもブラジルでも同じだと思います。



ちょっと変わった授業として、体育の授業で、チェスをしていました。週3時間の体育の授業の内1時間をチェスに当てているそうです。この学校は、パラナ州の大会で団体と個人で優勝するほどチェスの強い学校だそうです。



左下写真は、チェスの授業途中から、子どもの名前をカタカナで書いてあげていたところ大人気になり、次から次へと名前を書きあげているところです。子どもの名前をカタカナで書いてるのでサイン会とは違いますが、雰囲気はサイン会でした。

この学校では、校長先生にお願いし、先生方との座談会をさせてもらいました（1時間余り行い、授業時間に食い込みましたが、先生方はあまり気にしていないみたいでした）。座談会では、この学校の数年間の様子、他校との比較、学校の設備、仕事の持ち帰り、職員室の環境、保護者の学校への協力、特別支援が必要な子どもへの対応、留年についての考え方・・・など、多くの問題がでてきましたが、それぞれの問題について日本の現状も紹介することで、お互いの国の教育制度や考え方について情報交換することができました。単に、学校を訪問し、子どもを見たり施設見学したりするだけでなく、このような時間がとても有意義です。この学校では、教師との座談会の後、校長・教務担当との座談会も行いました。

この学校では、校長先生にお願いし、先生方との座談会をさせてもらいました（1時間余り行い、授業時間に食い込みましたが、先生方はあまり気にしていないみたいでした）。座談会では、この学校の数年間の様子、他校との比較、学校の設備、仕事の持ち帰り、職員室の環境、保護者の学校への協力、特別支援が必要な子どもへの対応、留年についての考え方・・・など、多くの問題がでてきましたが、それぞれの問題について日本の現状も紹介することで、お互いの国の教育制度や考え方について情報交換することができました。単に、学校を訪問し、子どもを見たり施設見学したりするだけでなく、このような時間がとても有意義です。この学校では、教師との座談会の後、校長・教務担当との座談会も行いました。



## 9月16日 アスカラナ地区州事務所訪問

いよいよ今日から、マリंगाを拠点に他市を訪問するメニューの開始です。とりあえずアスカラナ市方面に6日間、アラポンガス市方面に3日間行きます。今日は、これらの市を管轄しているアスカラナ地区州教育事務所への訪問です。

アスカラナは、マリंगाから70数kmある人口12万人ぐらいの中規模都市で、市の中心部に右写真上のように美しい教会があり、坂道の多い町でした。昼食後に、散歩しましたが、落ち着いたすみやすそうな町でした。再渡伯以来、マリंगाもアスカラナの町も外国に来たという感じが自分の中で薄らぎ、また、町行く人も外国の人という感じがしなくなってきました。6月初クリチバに来たときには、町も人もすべてが外国だったのですが、最近はその感覚ではなくなっている自分に気づき始めています。これは2つの町の特徴なのか、私が慣れてきたからなののでしょうか？この町は、帽子生産が盛んな町で、人々の多くは帽子を生産する工場に働いているそうです。そのためか、バス停には帽子がかたど



ってありました。(右写真下)

アスカラナ地区州教育事務所では、所長のヴァインダさんが快く迎え入れてくださいました。今日は、アスカラナとアラポンガスでの9日間の予定を調節することと、地区州教育事務所内の業務について説明を受けるためにきました。今後の予定については、調節の結果、州立学校、市立学校、日本語学校の各訪問、市教育局の訪問、日本の教育・学校についての説明、報道関係からの取材などが内定しました。もちろん変更有りですが、おおよその予定を決めることができました。皆さんには、また、報告書で詳細はお知らせしたいと思います。また、地区教育事務所の業務についても大変細かく詳しく説明を受けました(左上写真)。しかし、教育事務所は市教育局の出先という位置づけであるため、業務内容についてはこれまでに得た知識と同じ内容で、聞いている私としてはとてもわかりやすかったです。新しくここで報告するようなことはありませんでした。ただ、アスカラナ市は1日制の先進市ということで選択した市だけあって、37の市立学校のうち35校で一日制を行っているそうです。訪問が大変楽しみです。



私たちの退所頃に、事務所前に大型バスが到着しました。聞いてみると、学校事務職員の方々が、クリチバ近くの町で3日間、宿泊で研修を受けてきた帰りだそうです。パラナ州でもさまざまな研修が行われているのだと思いながら、帰宅しました。

## 9月17日 オスマール グアラジ フレイ/校訪問

今日は、アプカラナ地区にある州立学校訪問の1校目です。この学校は、アプカラナ郊外にあり小規模の学校で、地域住民は中程度より低い生活レベルの家庭だそうです。この学校は、学校経営として良い成果を上げたことで表彰され、校長先生が副賞としてワシントンへ視察旅行に行くことになっているということなので、楽しみに学校訪問へ行きました。



	午前の部	午後の部	学校の日課表と共に、概略を左に示します。学
1限	7:30~8:20	13:00~13:50	校により多少の違いはありますが、ブラジルの2
2限	8:20~9:10	13:50~14:40	部制の学校は概ねこのようになっています。授業
3限	9:10~10:00	14:40~15:30	は50分授業の形態をとっていますが、それぞれの
休憩	15分間	15分間	コマの間に休憩がありません。実際には、各教
4限	10:15~11:05	15:45~16:35	科の教師の出入りがあるので、休憩が全くないとい
5限	11:05~11:55	16:35~17:25	う状態ではありません。ですから、これは、表
			記上だけで、実際には50分の授業は行われてい
			ないこととなります。この状態で、年間200日
			の授業日数で行われています。午前と午後のクラ
			スについては、学校により様々な形態があります。
			次に、この学校の大きな特徴であるゴミについ
			てのプロジェクトを紹介します。それは、教室か
			らゴミ箱をなくし、各生徒が自分のゴミを各自が
			もっている個人所有の布製ゴミ袋で管理し、下校時に学校の大きなゴミ箱に入れて下校す
			るという取り組みです。日本では、どこの学校でも行われていそうなことですが、ここブ
			ラジルでは、生徒が掃除をしないので、この取り組みは、ブ
			ラジルの教育をしばらく見聞きしてきた私にも画期的でした。右写真を見ると、休憩後の配膳室前
			ですがゴミが一つも落ちていません。これまで見た学校では、休憩後の配膳室前
			には、お決まりのように食べ物が入っていた包みやその他の
			ゴミなどがかなり多く落ちていました。近くにゴミ箱があっ
			ても、子ども達の意識の中にゴミを散らかすことへの罪悪感が薄いように思いました。そ
			の点、この学校は他校とはかなり違っています。また、教室内にもゴミが落ちていなく、
			学校自体が綺麗な印象を受けました。校長先生のお話では、子ども達と地域のゴミ拾い活
			動をしたそうです。そういうこともあってか、地域にもゴミが少なくなったと地域の人にも
			歓迎されているそうです。

クラス数

数  
数

8年2クラス  
高1年2クラス  
高2年1クラス  
高3年1クラス

17

午前午後

5年2クラス  
6年2クラス  
7年2クラス

13

22



こういう取り組みの副次的な成果かどうかは分かりませんが、全国学力調査にあたる IDEB という結果が、他の学校に比較してかなり高くなっているのも受賞の要因のようです。